

告 辞

陽の光や、そよぐ風に春の訪れを感じます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和5年度 佛教大学 第56回大学院学位記、第72回卒業証書、第46回別科（仏教専修）修了証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、本当におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができましたのは、お一人お一人のご努力の成果であることはもちろんですが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族やご友人など、皆さんを取り巻く周囲の方々のご理解とご支援があったからに他なりません。ご家族やご友人、保護者の皆さまには、今日までのご支援に対し、敬意と感謝を表し、心よりお喜びを申し上げます。

卒業、修了される皆さんにとっては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で始まった学生生活であったことと思います。授業はリモートばかりの時期を経験し、食事は仕切りで囲われた中での黙食、課外活動もアルバイトにおいても、大声で話し笑うことや、口角泡を飛ばしての議論、歌うことや握手さえもできない状況で、マスクにより相手の素顔を知らないままで終わる人間関係であったかもしれません。その中で、これまで当たり前であった日常が、かけがえのない大切なものであったことに気づかされ、地球規模の災難を経て、人とのつながりがいかに大切なものであったかを、改めて感じた人も多かったことと思います。

ここ一年は、コロナに関わるさまざまな規制の緩和により、私たちの生活も以前の状態に戻りつつあります。そこに至るまでに皆さんは、それまでの常識では考えられない社会状況と困難な生活を経験され、それをしっかりと乗り越え、今日を迎えておられます。想像もしていなかった困難な日々直面しながらも、その中で自分にできることが何かを考え、それを実行し、自分が持っている力のすべてを振り絞りながら前に進み、そして本日の卒業・修了にたどり着かれていると思います。お一人お一人が貴重な経験をされ、それぞれに大きく成長されたことと思います。それらの経験が、必ずや皆さんの将来に役立つ糧となることは間違いないと信じています。そしてこれこそが、眼の前に起こる現実をしっかりと見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神を体現することに他なりません。佛教大学での学びを終えた皆さんには、一人ひとりの学びと経験が仏教精神そのものであることをご理解いただき、誇りをもって本学から巣立っていただきたいと思っております。

一方、本年1月1日、能登半島を襲った地震は当たり前のように思い描いていた正月の姿を全く違ったものへと変えました。今回の地震により命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げます。また被災され、今なお苦しい状況下での生活を余儀なくされているすべての方々に心からお見舞い申し上げます。一週間前の3月11日には東日本大震災から13年が経過しました。あれだけの災害を経験していながら、私たちはまだ自然災害への十分な備えや対応ができていないことを、改めて痛切に感じています。繰り返し発生する災害を教訓とし、そこでの経験から学ぶことの大切さを忘れずに、現実や困難に向き合いながら、復興に向けての取り組みを続けていかなければなりません。

世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻は未だ終息せず、ガザとイスラエルの衝突も終わりが見えません。紛争は世界各地で起こっており、難民問題や人種差別など、世界中で平和が脅かされ、人権がないがしろにされている状況があります。それは遠い世界のことでなく、私たちの

日本も決して安全で安定した状態にあるわけではありません。また、差別やいじめ、他者への中傷などの人権侵害、さらには身勝手な理由による事件や事故など、私たちの身近でも家庭の平和な生活が脅かされる場面が頻発しています。そして、私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っています。だからこそ、常に、悩み苦しむ人々の存在に自ら気付けることが重要であると考えます。将来に関して不透明・不安定なことを見聞きすると暗い気持ちになることもあるかもしれませんが、常に希望を持ち続け、誰もが幸せを感じることができる社会を築くためにはどうすればよいか、私たちは考え続けなければなりません。そのためにも、自分を取り巻く世の中の動向を正確に把握し、それらについて深く洞察しながら、いま自分にできることは何なのか、自分は何をなすべきかについて、自分自身をしっかりと見つめながら、考え続けていただきたいと思います。

皆さんは、佛教大学で多くの知見を手に入れ、免許や資格を取得し、専門に関わる優れた技能などを身につけ、そしてさまざまな経験を積まれたことと思います。本学での学びを通じて皆さん自身が獲得された力は、皆さん自身を決して裏切ることはありません。社会がどんな状況になっても、その力は生きていく上で大きな糧となるでしょう。大学生活で得た経験と学びに自信を持ち、佛教大学を卒業、修了したことに誇りを持って、目の前の道を一步一步着実に歩んでください。皆さんの着実な歩みは、未来へと確実につながっています。お一人お一人が未来の種となり、その種が縁によって生まれ、そして確かな実を結ぶことによって、明るい未来が切り開かれていくことに繋がっていきます。小さな種が、やがては未来に大きな光を放つことを信じて、どうか誠実に、そして明るく前向きに歩み続けてください。

本日で一旦、皆さんの学びは終了しますが、時代の変化はとても速く、私たちを取り巻く社会は、想像をはるかに超えた早さで変わっていきます。そういった予測不能の時代にあっては、社会の急激な変化に対応するためにも、新たな学びが必要とされる時が必ずやってきます。また、現在は最終学歴より学修履歴が重要視され、生涯にわたって学び続けることが求められる社会でもあります。そういった社会において力を発揮するためには、学び直すこと、学び続けること、そして考えるかに、さらに磨きをかけることなどが必要となってくるでしょう。もしも更なる学びが必要なときにはぜひ、佛教大学に帰ってきてください。本学には大学院、通信教育課程、オープンラーニングセンターなどがあり、人生の様々なニーズに相応しい多様な学びの場が用意されています。そして、これからの長い人生で、悩んだり迷ったりしたときは、焦らずに立ち止まり、振り返って考えてみることも必要でしょう。そのような時にはぜひ佛教大学を思い返してください。皆さんの学びの原点である佛教大学で、私たちは、いつも皆さんを見守っています。そして、教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

卒業、修了される皆さん全員が、明るい未来に希望を託し、自信と誇りを持ってご活躍されることをお祈りし、告辞といたします。

ご卒業・修了、おめでとうございます。

令和6年3月18日

佛教大学長 伊藤 真宏